

まち紹介

佐原

香取市佐原・小野川河岸を^{かし}歩いてみる

第2回

文・写真
橋本 修一

▲T商船ビル

歴史的景観の町で新しい建物を作る

回を改めまして、続きを歩いて見ましょう。早速見えてくるのが、T商船のビルです。この建物は、RC造3階建てで、平成19年に完成しました。なお周囲の景観に合わせるため、外観のデザインは、東京新橋の堀商店(建築金物)を参考にしたそうです。もちろん許可は取ったそうです。かなり目立つ建物で、見る人によって感じ方は、違うかもしれません。佐原の町並みに新たに建物を作る事は、構造が木造であれ、RC造や鉄骨造であれ、難しい仕事だなと感じました。

このビルの前に架かっている橋は、協橋(かなえばし)と言います。この橋は、佐原の町の中心に位置するとされています。現在の橋は、強度を考慮して鉄骨になってしまいました。



▲協橋

昭和43年竣工です。協橋の歴史としては、江戸時代には、木造で当時大橋と呼ばれていたそうです。さらに町の有志が東京の万世橋のような大橋を作ろうと計画し、写真のような立派な橋を町民の寄付金によって明治15年に作られたというです。その頃は、忠敬橋(ちゅうけいばし)と呼んだそうです。



▲旧忠敬橋(明治45年ころ)

観光による商いを目指して

次に歩を進めていくと、道路の角度に合わせた、建物に出会います。そのため建物の角が直角になっておらず、角柱は微妙な5角形になっています。どのような平面になっているかは、佐原町並み交流館(旧三菱銀行隣)に模型が展示してあるので、気にな

る人は行って見てください。さて、この建物も前回話しましたNIPPONIAと書いてあります。これは、前回も紹介した町屋を宿泊施設にした旅館業で、この場所にフロントがあります。

何件か実際に止まる場所が設定されています。このほかにも最近はお土産物売りの店や、喫茶店レストランもかなり出てきました。しかし、佐原も観光による商いを目指していくのは、これからでしょう。



▲旧中村屋商店

◀協橋から
旧三菱館方向を見る

参考までに現在旧三菱館は、地震や台風災害そして経年劣化で、存続が難しかったのですが、何とか資金を調達し、現在は修繕中です。シートに隠れて見えませんので、以前取った写真を載せておきます。当然、東北大震災の前の勇姿です。旧三菱館の紹介は、何れ又とすることにしたいと思います。



▲旧三菱銀行

伊能忠敬の旧宅とその周辺

言い忘れましたが、この角の店は以前中村屋商店と言い、主に荒物や雑貨を商ってきた商家でした。安政2年(1855年)に建築されたと伝えられています。隣の土蔵は、明治25年に建築されたものです。

何件かの商家を通り過ぎていくと、小さな橋が見えてきます。これは、樋橋(といばし)と言います。



◀樋橋周辺の町並み